



「不登校理解・支援のポイント～適応指導教室での実践から」

横手市不登校適応指導「南かがやき教室」
専任指導員 佐藤 さゆり

1. はじめに

自分のイメージを確かめよう

質問：「不登校の子どもたちとはどのような子どもたちなのでしょう？
あなたはどのようなイメージを持っていますか？」

回答：「

」

相談の現場にいて感じること

本人も、周りも気づいていないだけで、本当は「 な子」である。

私たちに求められている支援とは？

保健室、相談室、適応指導教室などに通う子どもたちへの援助の目的

たんに原籍学級へ復帰させることだけではない。その子が抱えている発達面の課題を自ら乗り越えられるように援助し、これから続く人生の長い道のりを切り開いていくための力を育成することである。(河村茂雄、2002)



自分で問題に対処する能力を育て、自分で問題を予防し、自分で自分を成長させていく能力を育てることが目標。

「育てるカウンセリング」+「治すカウンセリング」 よりよい生き方の援助
(教師、親など) (カウンセラーなど)

2. 適応指導教室とは

不登校児童生徒のための公的な支援機関

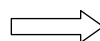
児童生徒の在籍校と連携をとりつつ、個別カウンセリング、集団での指導、教科指導等を組織的、計画的に行う場所。

<大きな特徴>

“ 個と集団 ” 両面からのアプローチが可能な場

南かがやき教室（秋田県横手市）...設置11年目

- ・出席率（通級率）の高さ
- ・復帰率の高さ



子どもたちがくれた
対応のヒント

・不登校体験に対するプラスの自己イメージ

3. 子どもの「ためになる」アプローチ

A. 現在地を理解しよう

- ・発達段階
- ・自己肯定感
- ・ソーシャルスキルの獲得度

B. 目的地を見つけよう

個人、集団の現在地に合わせた目的地を見つける段階
ファーストステップはどれか
最終目標はどこか

成功体験の
積み重ね

C. 方法を考えよう

子どもに育てたい力

すてきな「自己肯定感」を育てよう

どうせわたしは・・・

どのような言葉かけが響くのか

自己肯定感を高めるためには何ができるのか

揺らがない二者関係の体験



集団体験へ

すてきな「友だち」関係を築く力を育てよう

- ・友達関係における思いを大切に扱う
- ・上手につきあうためのソーシャルスキルを育てる

「モデルとなる大人との出会い」をプレゼントしよう

こんな風に接すればいいのだな

こんな言葉を使えばいいのだな

“つなぐ” 役割を果たそう

学校とつなぐ

友達とつなぐ

自分自身との出会いをつなぐ

自分の未来とつなぐ

自分の人生に OK サインを送ろう

・不登校体験はマイナス？

失敗体験は失敗のままでは終わらない

・体験の意味づけに立ち会う

出会い体験の
やりなおし

4. おわりに～ であいの連続のなかで

“先生、人って変わるんだね！”

“人はたった一人の出会いによって変わるんだよ”

子どもを支援するとは、与えるだけの関係ではない。ともに与え、与えられる相互関係であり、出会いそのものである。私自身も子どもたちとの出会いによって育てられ、元気をもたらしている。その元気が新しく出会い子どもたちを迎える際のあたたかさにつながっている。

不登校体験をプラスの力に変えるヒントは、真の出会い、リレーションにある。



誰かにとっての「大事なひとり」であるみなさんが、出会いを紡ぐすてきな日々を迎えられますように！どうぞご活躍を！

【参考文献】

- ・育てるカウンセリングによる教室課題対応全書6「不登校」 國分康孝 図書文化 2003
- ・ワークシートによる教室復帰エクササイズ 河村茂雄 図書文化 2002
- ・カウンセリング心理学事典 國分康孝 誠信書房 2008

<メモ>